

2025年度 総合型選抜（11月募集）課題型（プレゼンテーション）

経済学部 経済学科

1. プレゼンテーション課題

提示資料についての問いかけに答えるかたちで、あなたの考えをプレゼンテーションしてください。提示資料とは以下の文章「円安とコメ市場」です。まず、提示資料を読み、この文章下部にある設問に答える準備をしてください。この設問について考えた内容をもとに、プレゼンテーションのための「要約シート」1枚を作成してください。この要約シートを元にプレゼンテーションを行っていただきます（要約シートの作成およびプレゼンテーション実施に際しての詳細は、下記「2. 実施要領および諸注意」に従ってまいります。よく読んだ上でのごんてください）。

円安とコメ市場

23年度まで2年連続で消費者物価指数が3%上昇した日本だが、34年ぶりの円安の影響もあり、外貨換算でのモノやサービスの値段は主要国の中でなお低い。賃金もドル換算で経済協力開発機構（OECD）加盟38カ国中25位にとどまる。「安いニッポン」は日本の購買力という点では逆風となる。

だが逆に攻めの一手にしようとする日本企業の動きも出てきた。JVC ケンウッドは世界シェア3位の業務用無線について、米国生産分を日本にすべて移し、北米に輸出する体制に切り替えた。日用品の生産の一部を国内に戻したアイリスオーヤマも日本の立地を生かす次の一手を打つ。パック米飯の輸出に乗り出し、24年には米国やタイにも広げた。海外で日本食の人気が高まるなか、成長事業に育てる。国産米の輸出量も10年間で12倍弱に増えた。背景にはかつて高関税で守ろうと躍起になった高い日本のコメの変貌ぶりがある。米国産に比べ2倍の値段が続いてきたが、国産相場の低迷と米国産の不作が重なり22年に初めて逆転した。日米のコメ価格差の縮小は日本からの輸出戦略の背中を押している。

◇

農林水産省によると、22年のコメの総産出額は1兆3946億円。市町村別の推計産出額の公表が始まった14年に比べて3%減った（図1参照）。同省は今後も主食用米の国内需要は減少を続け、40年には現在よりも3割減ると予測する。一方、22年の市町村別のコメの推計産出額を14年と比べると、全1718市町村のうち457市町村で増えた。増えた市町村数の割合を都道府県別にみると、香川県が88%で最も高く、秋田県（76%）、鳥取県（74%）が続いた（図2参照）。

市町村別の増加額が全国2位の秋田県大潟村は国内の大規模農業の代表格として知られている。近年は主力の「あきたこまち」に加え、加工品向けの生産を増やしており、現在は全体の5割程度を占める。米菓メーカーなどに原料として供給するほか、健康志向を背景に需要が増えるグルテンフリーの米粉パスタなども生産する。秋田県横手市は新品種「サキホコレ」の普及にも力を入れる。農薬の使用を半分以下に抑える「特別栽培」を23年に本格導入。生産履歴の開示なども通じて、安全な農産物としてのブランド構築に挑む。市場の評価は高く、価格アップや契約量の拡大につながっているという。24年度は同品種の作付面積を県全体の5分の1に広げる計画だ。5位の宮城県登米市は海外市場に熱い視線を送る。JAみやぎ登米はコメ輸出に力を入れる大手卸会社の神明と連携。23年度の「ひとめぼれ」などの輸出量は同市産の6%程度にあたる3500トンに増えた。24年度以降も4000トン計画する。

農業関連のシンクタンクである農政調査委員会の吉田俊幸理事長は、「人口が減る以上、国内のコメ消費の長期的な減少は避けられない」と強調。「産出額が増えている自治体は加工品を含めた需要動向をしっかりと把握している。国や自治体も生産者とともに輸出を含めた将来のコメの姿を見極めたうえで支援策を充実させる必要

がある」と話している。

(瀬口蔵弘「データで読む地域再生」(2024/4/20)および署名なし記事「物価を考える③」(2024/5/17)ともに『日本経済新聞』より一部改変の上掲示)

図1 農家数は50年で6分の1に

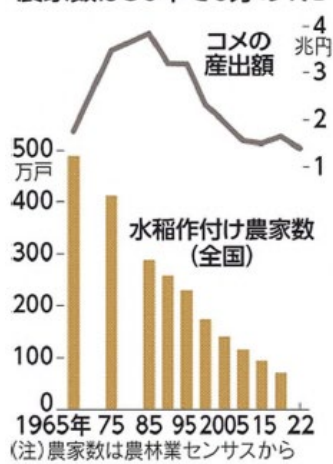
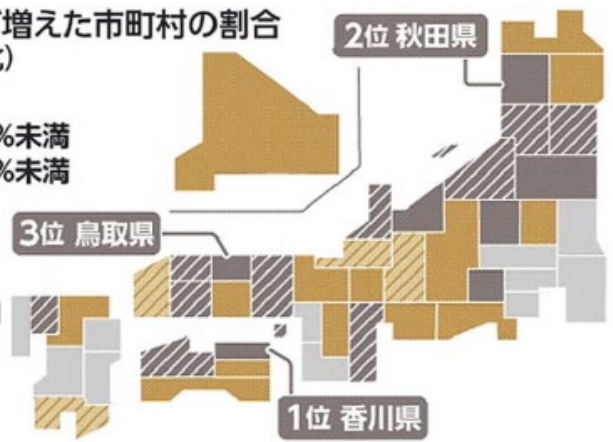


図2

コメの産出額が増えた市町村の割合 (2022年、14年比)



(出所) 農林水産省「市町村別農業産出額(推計)」



設問Ⅰ) 「円安」とは何ですか。またそのメリットとデメリットを紹介してください。

設問Ⅱ)

- コメ生産をめぐる状況について図1および図2に基づき説明してください。
- 本文を問わずコメの産出額を増やしている自治体の取り組みについて具体例をあげて述べてください。

設問Ⅲ) 日本のコメ農業の将来をどのように展望しますか。あなたの意見を中心に論じてください。

【ヒント】設問について考えるにあたっては、以下のような資料や書籍をもとに調べてみてみましょう。

- 農林水産省 統計情報 (各種データ資料など有り)
<https://www.maff.go.jp/j/tokei/index.html>
- 角川絵一『為替が動くと、世の中どうなる?』すばる舎、2018年
- 尾河眞樹『為替ってこんなに面白い!』幻冬舎新書、2024年
- 八木宏典監修『図解 知識ゼロからのコメ入門』家の光協会、2019年
- 窪田新之助/山口亮子『人口減少時代の農業と食』ちくま新書、2023年
- 小池理雄『なぜ、その米は売れるのか?』家の光協会、2023年

2. 実施要領および諸注意

(1) プレゼンテーション(発表)の時間は10分間です。プレゼンテーション後、口頭試問(5分間)と面接(10分間)を行います。

(2) プレゼンテーション時に使用できるのは、「2025年度 関東学院大学経済学部 総合型選抜 課題型(プレゼンテーション) 要約シート(以下、要約シート)」1枚のみです。要約は、要約シートの枠内に収めてください。

※ 要約シートの書式は[こちら](#)(PDF形式)からダウンロードして、A4判として印刷し、手書きで作成してください。

※ 黒板やパソコン、模造紙などの使用は認められません。

※ 「要約シート」以外の持ち込み・使用(読み上げ用の原稿、メモ用紙、写真、書籍、スマホやタブレット、PCなどの電子機器)は一切、認められません。

※ 「要約シート」を拡大コピーすることは認められません。

(3) 「要約シート」はコピーして、試験当日に**3部持参**してください。2部は審査員用で、残りの**1部は受験生用**です。受験生用の要約シートについては、枠外および裏面への事前の書き込みを認めます。ただし、枠内については3部ともに全く同じ内容にすること。

※ 審査時に審査員が要約シート3部すべて枠内に同じ内容が記載されているかについて確認します。

(4) 課題に取り組むにあたって参考にした書籍や資料、インターネットのURLなどは要約シート内の**指定欄**に記入してください。

(5) プレゼンテーションは原則として立った状態で行ってください。ただし、怪我や体調などに特別な事情がある場合はこの限りではありませんので、審査員に申し出てください。

■ 準備にあたっての心構え

プレゼンテーションでは、資料収集力や分析力、編集力を示すことが重要になります。以下の点に注意して準備をしてください。

(1) 情報を収集・整理して、自分の考えをまとめる

試験当日までに、テーマに関する書籍や資料を幅広く収集し、自分なりに整理・分析して、自分の考えをまとめましょう。

※ 情報収集のツールとしてインターネットは便利ですが不正確な情報もあり注意が必要です。利用する際は必ず情報源を確認し、信頼できる情報のみを利用しましょう。自分の考えを書く際は、良い・悪いといった価値判断だけでなく、客観的な理由もあわせて具体的に示すことを心がけましょう。

(2) 聞き手に効果的に伝えるための練習をする

調べたことや自分の考えを10分という限られた時間の中で効果的に伝えられるように口頭発表の準備をし

ておく必要があります。

(3) 要約シート作成にあたっての注意

「要約シート」の作成にあたっては、発表の内容や構成が効果的に伝わるように、要点を箇条書きにしたり、図で示したりするなどの工夫をしてください。

3. 評価の視点

経済学部 of 総合型選抜（11月募集）[課題型(プレゼンテーション)]では、事前に出題された課題に関するプレゼンテーションと口頭試問、調査書・大学入学希望理由書・学修計画書、面接の評価を総合して判定します。

なお、プレゼンテーションは、課題に関する理解や調査の十分さ、発表における論理性や表現力、時間管理などから評価します。

上記「2. 実施要領および諸注意」をよく確認して、準備をしてください。

